



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2023年3月1日

3月号

校長 木村 千裕

学校教育目標

～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。



日差しに暖かさを感じるようになり、季節が春へと移りつつあります。3月を迎え、一緒に過ごす時間が残り少なくなった今、クラスの仲間とお互いを思いやり「自分も大切に、みんなも大切に」の気持ちを忘れず、最後の1か月を温かい気持ちで過ごしてほしいと思います。

子どもたちはこの1年間、学習や行事などの活動に取り組む中で、達成感を味わうこともあれば、うまくいかずに気持ちが落ち込んだり、悔しい思いをしたりすることも、あったことと思います。そうした思いを乗り越えながら、4月初めに比べ、一回りも二回りもたくましく成長しました。我々大人のすべきことは、成長過程の子どもたちをしっかりと受け止め、時には励まし、時にはそっと背中を押しながら、子どもたちの成長を温かく見守っていくことだと思っています。子どもたちの成長は、毎日見ていると気付きにくいものですが、ふとした言葉や行動の端々から大きな成長を感じるものです。子どもの成長は、差はあっても着実です。今年1年間の子どもたち一人ひとりの頑張りに思いを馳せ、「本当によく頑張ったね。」という言葉と、大きな拍手を送りたいと思います。

今年度も、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動にご理解ご支援をいただきまして大変ありがとうございました。心より感謝申し上げます。次年度も引き続き、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



「最高学年のバトンパス」

2月に入り、郷小委員会による『HAPPY集会』と、運動委員会による『縄跳び大会』『おにごっこ大会』が開催されました。どちらも、学年縦割りの企画で、組ごとに曜日を分けて1年生から6年生が参加しました。『HAPPY集会』では、ドッチボールが行われましたが、高学年の投げ力強いボールを見て、声をあげる低中学年の児童の姿や、高学年の児童が低学年の児童へやさしい言葉をかける姿などが見られました。こうした交流は、互いに学びあう場面が多く子どもたちにとって大事な時間となりました。『HAPPY集会』は「6年生の卒業を祝い、思い出に残る楽しいひと時を過ごす」が目的で、5年生がすべての進行を務めました。集会の終わりには、1年生から5年生までの子どもたちが、お世話になった6年生に「ありがとうございました」と感謝を伝える場面もありました。

今年度1年間、下級生の範となる姿を見せ続けてくれた6年生から、いよいよ5年生に最高学年のバトンパスが行われます。

